

技術者の心 その一 文の構造その一

文の構成を把握して、この文章では一体何が言いたいのかを読み取ろう。

文の表現のしかたは様々であるが、結局のところ次に言い換えられる。

（ ）は（ が ）
だ（ である / でない ）
した（ する / していな い ）。

《例》アリスが自由な心の産物であることには誰も異論がないであろう。

アリスが自由な心の産物である。

誰も異論がない。

（例）しかし人間と共に存するロボット、それは人間の気持ちを察知し、動きを予測し、しかもぶつかつても人間に怪我をさせない柔らかさを持つものであるが、それが本当に自由な心と関係あるかどうかは、確かに自明とは言えない。

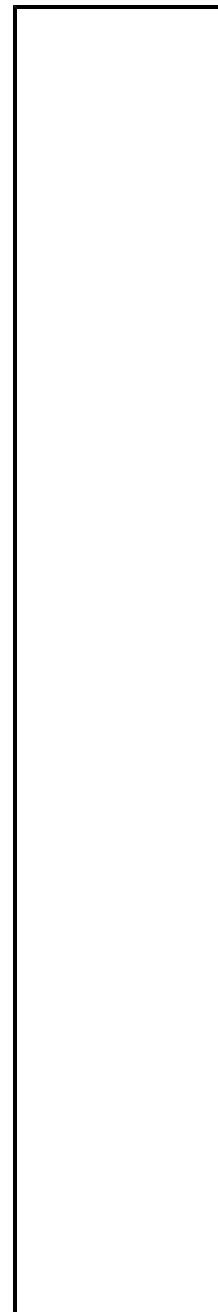
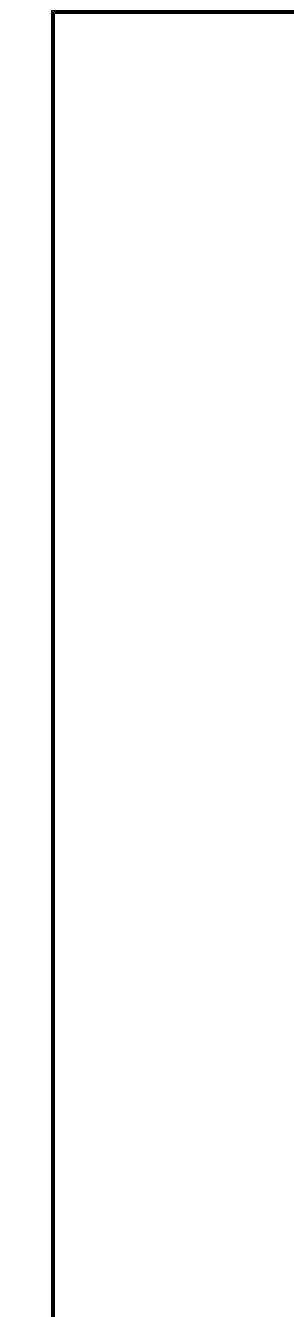
それは人間の気持ちを察知し、動きを予測し、柔らかさを持つものである。
それが自由な心と関係あるかどうかは、自明とは言えない。

《課題》 それぞれ担当者を決めて責任を持つて構造を読み解こう。

番号 担当者

（28）（ ） とくに、もしそれが完成したとしたら、それは間違いなく自然に存在するものである以上、自然法則の帰結という面を持つている。

（29）（ ） しかし、私は技術者という立場で、そのようなロボットを構想し、それを人の間に配置したときの状況と意味を考えるのは、自由な心であると言いたいのである。



(30) () ルート、アコペとロボットをくじくれば、自然法則が強い拘束となる坂がロボットをアコスと区別する唯一の坂なのですね。

(31) () ロボットに限らない。技術的産物はすべて人の心の反映であるが、それには自然法則という大きな拘束が一つの特徴を作っています。

(32) () じいじの詩や小説にも、意味伝達のための言語規則という拘束がある。

(33) () 文学作品も技術的産物も、すべて人の心が生み出すものであって、基本的に自由であり、何を生み出すかの外在的な指導原理は存在しない。

(34) () 存在するのは拘束条件だけである。

『結論』結論をシンプルに書いつ。

技術者の心は

である。